

平成27年度 まちづくり推進部 横手地域局 方針書

まちづくり推進部 横手地域局長 _____ 大和 敏憲

1. 横手地域局の使命（役割）

地域の多様な資源（人、もの、歴史、文化、自然など）を活かし、「人にやさしい 住み続けたい横手」を目指してまちづくりを推進する。

2. 平成27年度における課題（前年度の振り返りから）

- ◇新しい組織体制での業務遂行を円滑に行う。
- ◇丁寧の一つずつ段階を踏み着実に事業を執行する。
- ◇大雪時の市街地除排雪作業を検証・見直し、及び道路・公園の危険の未然防止体制を確立する。

3. 平成27年度の『スローガン』

連携でチーム力を高めよう

4. 年度目標となる方針（目標）

- ◇地域住民の身近な窓口として信頼される地域行政拠点の構築
- ◇市民協働による生き生きしたまちづくりの推進
- ◇安全安心な住みよいまちづくりの推進

5. 重点取組項目

(1)	項目	地域住民の身近な窓口として信頼される地域行政拠点の構築
	取組内容	①市役所を代表しているという自覚と寄り添う気持ちを持って、市民に対応する。 ②新しい組織機構での事務分掌などの情報共有と連絡体制を確立する。 ③自己研鑽に励み、自信を持ってはつらつと行動し信頼される職員を目指す。
(2)	項目	市民協働による生き生きしたまちづくりの推進
	取組内容	①金沢地区総合交流促進施設整備事業を推進する。 ②学習活動やコミュニティー活動を支援し、地域づくりへの市民の積極的な関わりを促進する。 ③地域内・地域間・部局間の連携により、人の交流や事業効果を高める。
(3)	項目	安全安心な住みよいまちづくりの推進
	取組内容	①交通安全、防犯、消防、防災に関する本庁部局との連携を良くし、業務を推進する。 ②危険箇所の情報を早期に取得し、事故を未然に防止する。 ③ここ数年の大雪で明らかになった課題について建設部と連携して解決策を講じる。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

- (1) 地域住民の身近な窓口として信頼される地域行政拠点の構築
係単位の始業時の朝会、課全体での週初めの行政経営理念等の唱和の励行により、情報共有や業務の取り組み姿勢の意識化を図った。
庁舎移転、組織機構再編に伴い誤って来庁する方に対し、担当課への確認や説明、繋ぎや誘導など丁寧に行われている。また、「くらしの便利帳」改訂をはじめ、他部所発行の市民向け案内について確認し担当者と連携して、市民の誤来庁の未然防止に努めている。
- (2) 市民協働による生き活きたまちづくりの推進
交流促進施設整備事業は、FM計画との調整等のため、当初予定からは遅れている。現金沢公民館の施設状況からも、平成29年度供用開始を目指し調整を急がなければならない。
元気の出る地域づくり事業について、地域づくり協議会がH26年度の全事業の評価を行うとともに、いくつかの現場を直接視察した。どの事業も事業趣旨に合致するものであった。
横手地域の市街地地区で除雪を当面の目的とする共助組織が立ち上がった。地域課題を自ら解決するための組織作りと、公民館様施設の「地域交流センター化」をどのようにリンクして進めていくかの検討を進め、各地区に説明していく必要がある。
- (3) 安全安心なまちづくりの推進
交通安全、防犯、消防、防災については、関係機関との連携はスムーズに行われている。
所管する公園の事故の未然防止のため安全点検パトロールを月1回実施している。
一方で、雨水の排水口の管理や、火災時の被災者への対応についての課題が明らかとなった。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- (1) 地域住民の身近な窓口として信頼される地域行政拠点の構築
朝会や行政経営理念の唱和を今後も継続するとともに、資質向上を図るための各種研修の受講を職員に働きかける。
- (2) 市民協働による生き活きたまちづくりの推進
交流促進施設整備事業について、早期に調整を諮り、地域住民や議会への説明を行い理解を得る。
今年度中に実質的な事業費を確定し、平成29年度供用開始目指すとともに諸手続きを遅滞なく進める。
元気の出る地域づくり事業について、H28年度の企画書検討にあたっては、H26年度事業の評価内容を反映して検討する。
「地域課題解決の自主組織」の必要性について、各地区へのどのように説明していくか検討を進める。
- (3) 安全安心なまちづくりの推進
引き続き、交通安全、防犯、消防、防災について、関係機関との連携を良好に行う。
明らかになった雨水の排水口の管理や、火災時の被災者への対応について具体策を策定する。
雪対策への準備を万全にするとともに、不注意による作業事故の根絶を職員に喚起する。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

- (1) 地域住民の身近な窓口として信頼される地域行政拠点の構築
朝会や行政経営理念の唱和は定着し市職員としての向かうべき方向の確認は進んでいると考える。
組織機構改革に伴い予想された混乱について積極的に未然防止に努め、大きな混乱はなかった。引き続き、本庁機関が在る横手地域局という特殊性を踏まえた対応を継続していく必要がある。
- (2) 市民協働による生き活きたまちづくりの推進
金沢総合交流促進施設(仮称)整備事業は地区の皆さんのご理解をいただきながら実施設計を行った。
今後はH29年度供用開始に向け改修工事を進めるとともに、新しい施設を十分に活用しこれまで施設の制約があつてできなかったことも含め、地域活動が活発に行われるように地域で検討を進めてもらう必要がある。
地域づくり協議会は策定された多くの計画の諮問等もあり、11回の開催となった。会議では、H27年度元気の出る地域づくり事業の評価内容を新年度の事業検討に反映した。同事業は、地域住民による地域づくりを推進する事業であるが、報告書を見る限り補助金頼りの事業が多い。各団体の自立性を促すための取り組みをしていくことが必要と考える。
- (3) 安全安心なまちづくりの推進
火災の多い年であった。また、雨水の排水障害も発生した。消防、防災、その他関係機関との連携を良くし対応したが、本庁機関との連携による火災時の被災者への対応などのマニュアル策定を急ぎたい。また、「災害時職員初動対応マニュアル」の改正を受け、横手地域局の対応の具体を確認しておかなければならない。
道路瑕疵事故が年度当初に多く発生した。危険個所の情報収集の改善と速やかな補修対応が必要である。